

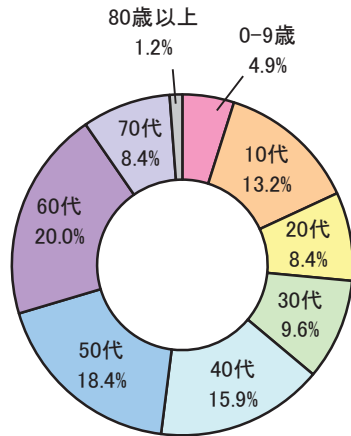
特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠—

アンケート集計結果

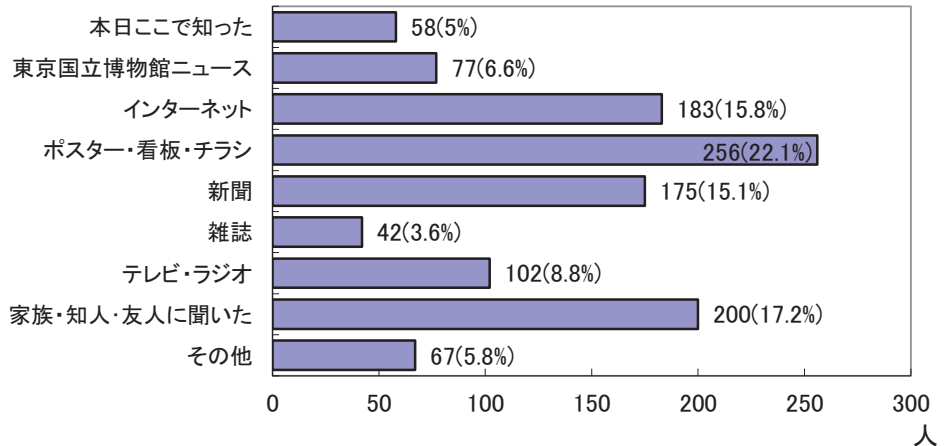
開催期間：平成28年3月23日（水）～5月15日（日）（50日間）

回答者数：824人（総入館者数：182,353人 アンケート回収率：0.45%）

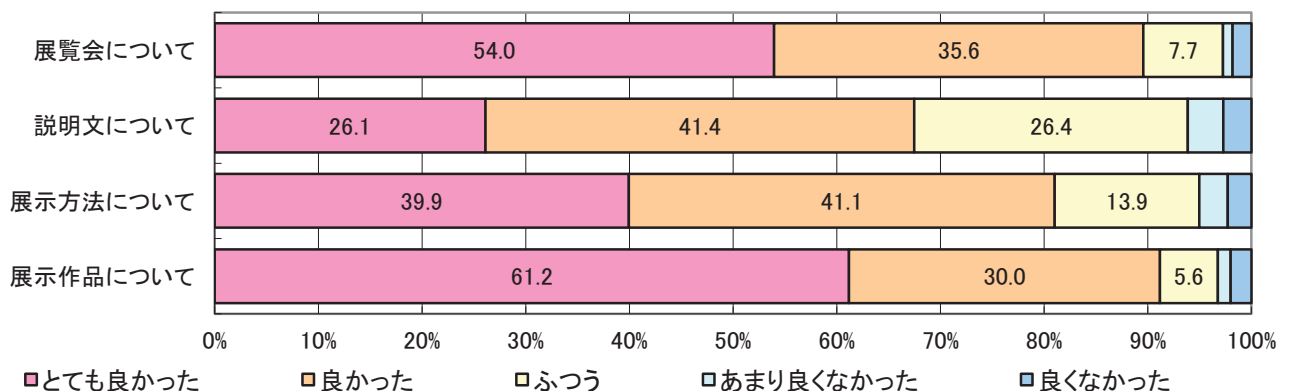
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 教科書で見た名作を鑑賞できた贅沢な展覧会だった。
- 黒田ゆかりの画家作品が多く展示されており、より本展への理解が深まった。
- 説明文の字が大きくて見やすかった。
- 絵画が見やすいライティングでよかった。
- 図録がきれいで読みやすく出来ていた。

注：上記数字は以下の通り

| | あまり良くなかった | 良くなかった |
|------|-----------|--------|
| 展覧会 | 0.9 | 1.8 |
| 説明文 | 3.4 | 2.7 |
| 展示方法 | 2.8 | 2.3 |
| 展示作品 | 1.2 | 2.0 |

(%)

本展は《湖畔》で広く知られ、日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝(1866-1924)の生誕150年を記念した大回顧展です。《読書》、《婦人像(厨房)》、《湖畔》、《智・感・情》を含む初期から晩年までの代表作を一堂に展示し、洋画の礎を築いた黒田清輝の画業全体を振り返ります。また今回はオルセー美術館からミレーの《羊飼いの少女》を特別出品。師のコランや影響を受けたピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、バステアン＝ルパーージュ、そしてモネ、シスレーら同時期の印象派の作品までをあわせて展示し、18歳の黒田がフランス留学で学んだ軌跡をたどります。「近代絵画の巨匠」「アカデミズムの創設者」にとどまらない、個人としての黒田清輝の人生、苦悩、人間関係を掘り下げ、人間・黒田の実像と魅力に迫った本展には、18万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約90%の方々から好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「お花見チケットはとてもいいので、このような割引をもっと増やしてほしい」「グッズの絵葉書が品薄で残念だった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。